

世界で活躍する薬学人材養成

京都薬科大学 米国企業との共同教育プログラム

京都薬科大学(後藤直正学長)は、世界有数の医薬品開発業務受託機関(CRO)である、米国

企業のパレクセル・インターナショナルとの共同教育プログラム「アクリニカル・リサーチ・マネジメントプログラム(CRMP)」を、2月17日から3月19日までの5週間の日程で開講(新型コロナウイルス感染症拡大防止

のため、2月28日をもって中止)。今年度は18人の学生が受講した。

同プログラムは、近年、世界的な医薬品開発が進む中、日米欧3極による臨床研究・臨床試験の設計や計画を推進できる人材が、世界中の医薬品開発企業にとって重要となっていることから、世界を舞台に活躍する薬学人材の育成を目的に、

同社との共同教育プログラムとして2016年度から実施。臨床試験で用いる英語、薬事申請、治験の実施などについて、講義やグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて習得することができる。

同プログラムの講師は全員外国人で、同社の社内外の人材向け、臨床研究マネジメントの実務教育プログラムを有するパレクセル・アカデミーから派遣され、5週間の講座期間中、授業や、ディスカッション、プレゼンテーションは全て英語で行われる。

同プログラムの既定の内容を修了した学生には、修了証明書(Certificate)が授与されるもの。

学生の受講動機は、臨床開発への興味関心や英語力の向上など多岐にわたるが、同プログラム修了生は過去3年間で57人にのぼり、大学卒業後の進路は、製薬企業やCROにおける臨床開発系の職種への就職率が、各学年全体での比率に比べ、約2倍以上となっているという。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨床試験で用いる

英語に関する講義Ⅱ写真Ⅱをもって中止となりましたが、次年度以降も同講座は開講される予定となっている。



英語で発表する学生